

# 横浜市インフルエンザ流行情報 6号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

## インフルエンザ流行警報が発令されました。

### 【概況】

2019年第2週(1月7日～13日)の定点<sup>※1</sup>あたりの患者報告数は、横浜市全体で**37.03**となり、警報発令基準(30.00)を上回りました。

学級閉鎖等は、授業が開始された第2週は6件(小学校2件、中学校4件)の報告でしたが、第3週(1月14日～20日:集計中)は1月16日の時点で既に小学校を中心に100件以上の報告があり、急増しています。保育園での集団発生の報告も増えており、お子さんがいるご家庭での感染予防が重要です。

また、病院や高齢者施設等での集団発生の報告も増加しています。各施設での持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

年末から小児と高齢者の入院患者が増加しており、重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者も増加しています。

今シーズンの第2週までの迅速診断キットの結果は、累計でA型99.5%、B型0.5%と、A型が多く検出されています。全国のウイルス分離・検出状況<sup>※2</sup>では、AH1pdm型、次いでAH3型が多く検出されており、横浜市も同様の傾向です。

インフルエンザの本格的な流行に入ったため、正しい手洗い<sup>※3</sup>等の予防、咳が出る時のマスクの着用及び早期受診などの対策<sup>※4</sup>が重要です。

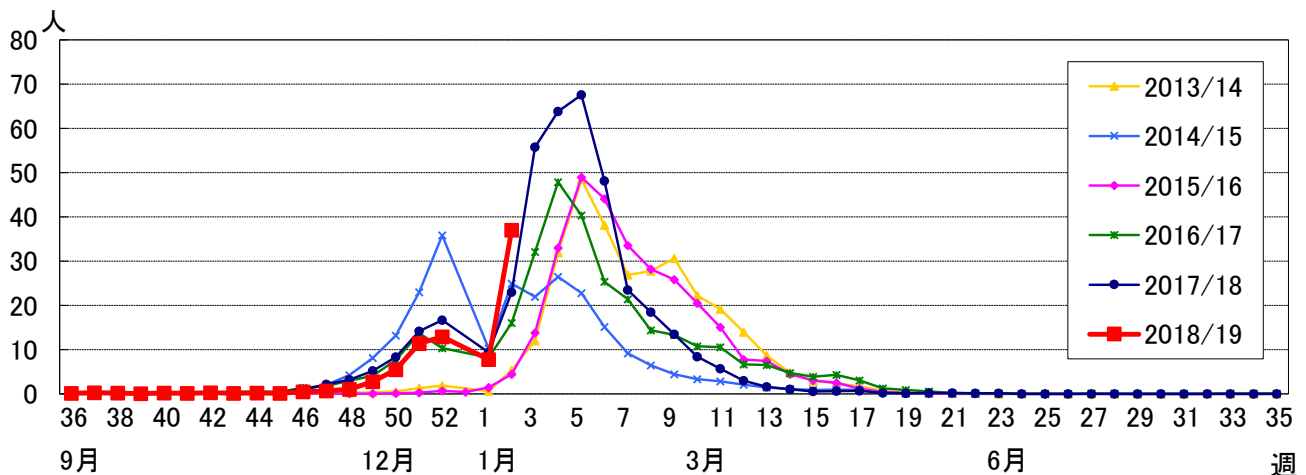
※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [インフルエンザウイルス分離・検出報告数\(国立感染症研究所、2019年1月16日作成\)](#)

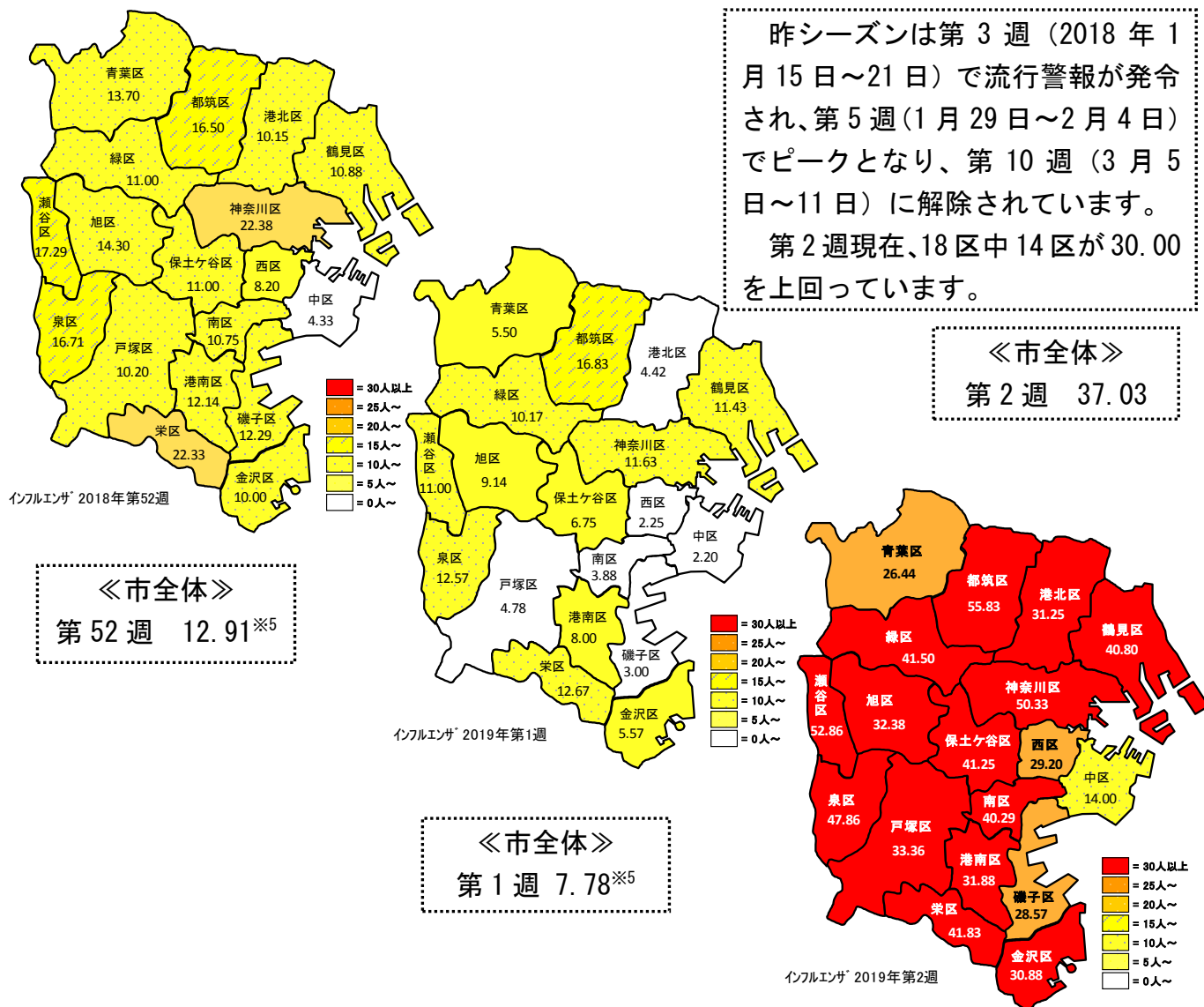
※3 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」、チラシ「咳エチケット」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※4 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第2週(1月7日～13日)で**37.03**となり、流行警報発令基準(30.00)を上回りました。



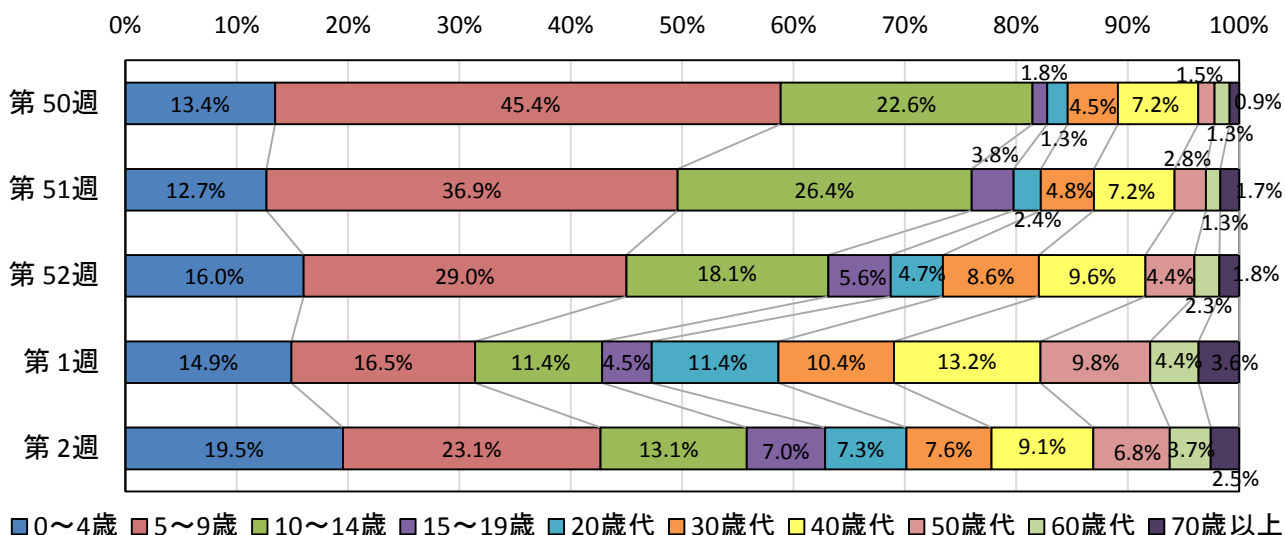
## 2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



※5 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

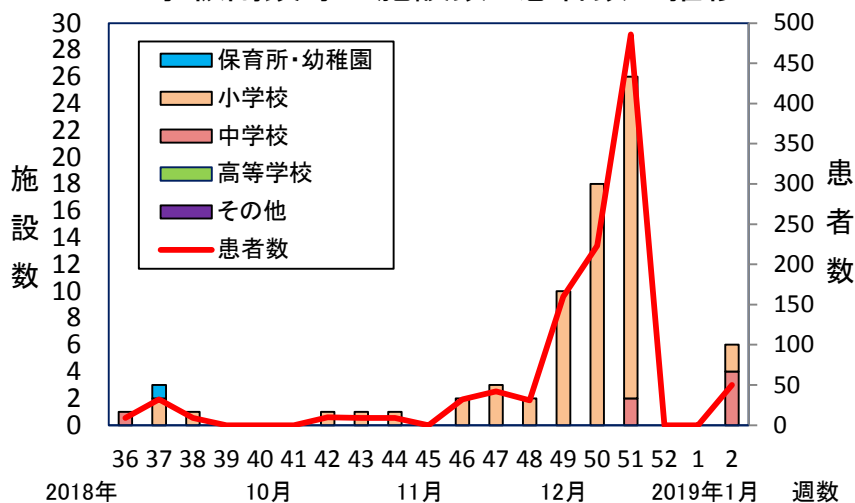
3 年齢層別集計:第2週の患者年齢構成は、5歳未満が19.5%、5歳から10歳未満が23.1%、10歳から15歳未満が13.1%となっており、10歳未満が全体の42.7%、15歳未満が全体の55.8%を占めています。

年齢層別患者割合

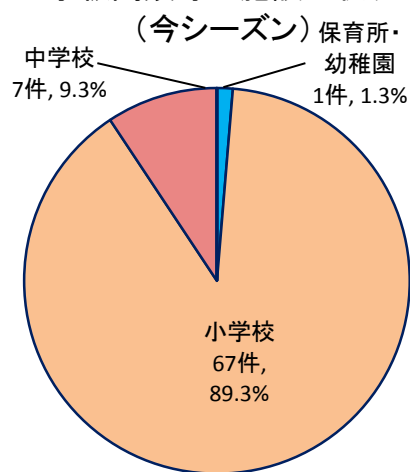


**4 市内学級閉鎖等状況:**第 52 週と第 1 週は冬休みのため、学級閉鎖等の報告はありませんでしたが、第 2 週は 6 件の報告(小学校 2 件、中学校 4 件)があり、報告された患者数は 50 人でした。今シーズンの報告は累計 75 件、患者数は延べ 1102 人となっていますが、第 3 週(1 月 14 日～20 日:集計中)は 1 月 16 日の時点で、既に小学校を中心として 100 件以上が報告されており、急激に増加している状態です。

学級閉鎖等の施設数と患者数の推移



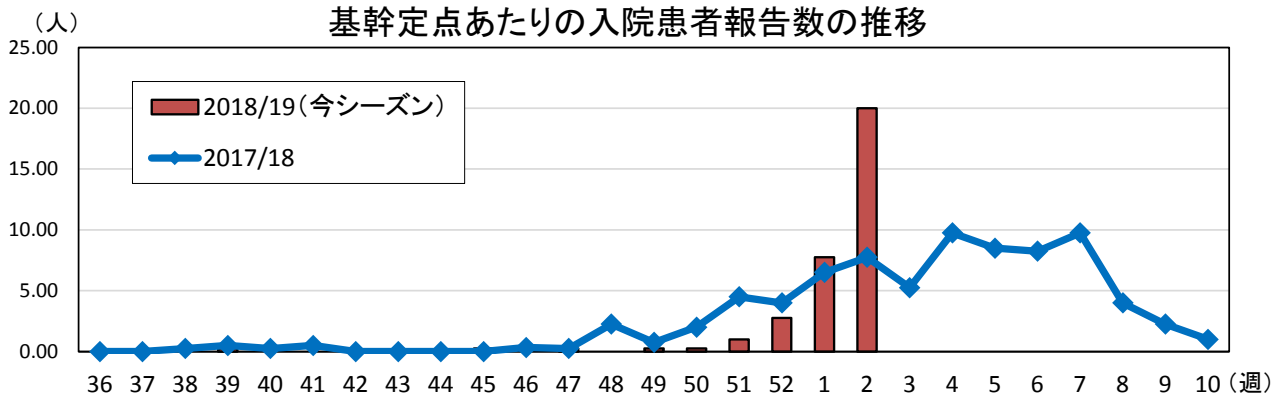
学級閉鎖等の施設の状況



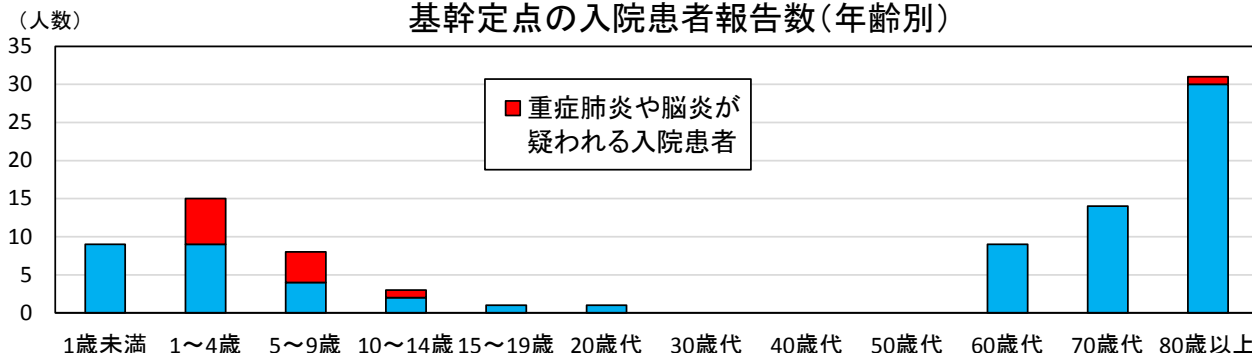
**5 入院サーベイランス:**市内基幹定点医療機関<sup>※6</sup>におけるインフルエンザ入院患者は、第 2 週で 40 人の報告があり、今シーズンは累計 91 人となりました。入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU 入室、人工呼吸器の使用、頭部 CT 検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第 2 週で 5 人の報告があり、累計 12 人となりました。

※6 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

基幹定点あたりの入院患者報告数の推移



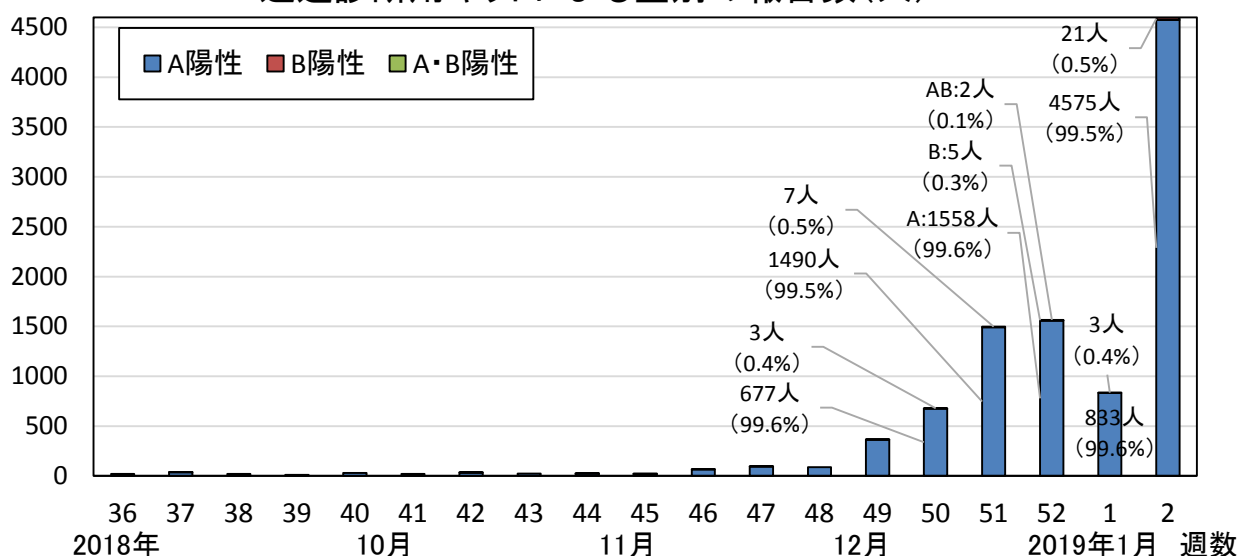
基幹定点の入院患者報告数(年齢別)



**6 インフルエンザ脳症:**第 2 週にインフルエンザ脳症疑いの 2 歳児の報告がありました。迅速キットにて A 型が検出されています。市内での報告は今シーズンで初めてです。

7 迅速キット結果:第2週の迅速キットの結果は、A型99.5%、B型0.5%で、A型が多く検出されています。今シーズン累計では、A型99.5%、B型0.5%、A・B型ともに陽性0.0%となっています。

横浜市の患者定点医療機関における  
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)

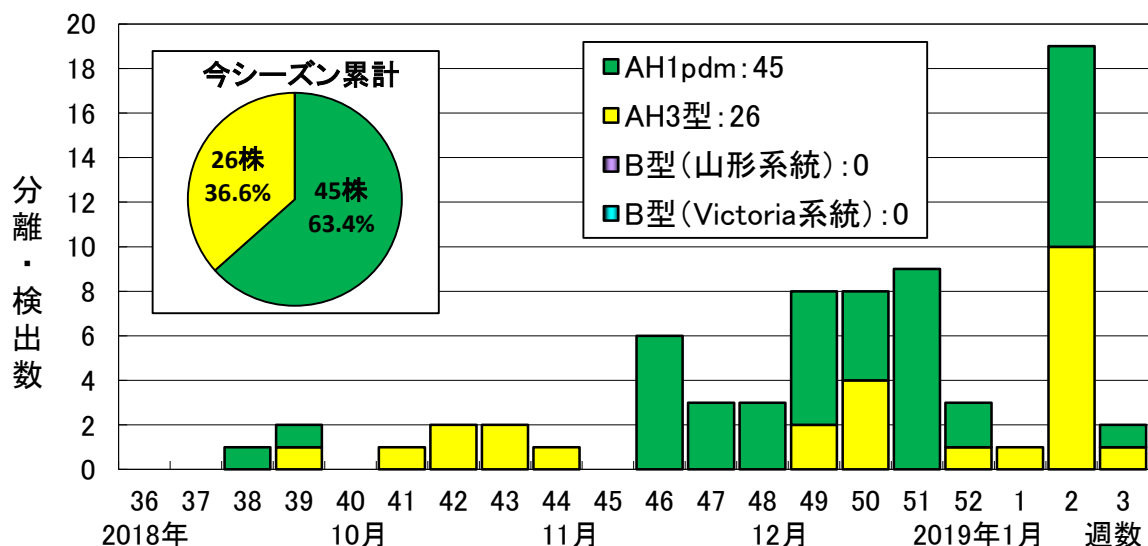


8 市内病原体検出状況:市内では病原体定点<sup>\*7</sup>からAH1pdm(45株)、AH3(26株)、B(0株)が分離・検出されており、AH1pdmが多くを占めています。全国の分離・検出<sup>\*2</sup>も同様の傾向と考えられます。

※7 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

(2019年1月16日現在)



※参考リンク 近隣自治体の流行状況 ○神奈川県 ○川崎市 ○東京都  
全国の流行状況 ○国立感染症研究所

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9279  
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2442